



タイトルも一新!
「チューリップの国トルコ」

三寒四温で、まだやい。我々に謙虚に生活や寒い日もあるが、前しろと言われているよの山では早朝からウグイスが鳴き、土手にはわらびが出始めた。

日本ほど春・夏・秋・冬と自然の恵みに、めぐまれている国はない。「老ってなに?」という長女から送られて来た新タイトルにして新しい歩みが続けることにした。巡礼路をスペインの北端を目指して歩むことは年齢的に無理である。でも、その心意気だけは忘れないようにしたい。

さて、「平成」が4月で終わり、五月からの年号は「令和」に決まった。日本最古の和歌集の「万葉集」からのものである。発表によると「神様の御告げ」という意味があるらしい。

我が家の庭は、今チューリップがほぼ全開である。水をやり心に掛けてきた甲斐があつたと、一人で悦に入る。今日、徳山から4人の友が本が送られてきた。

「今日」に彩りをかけがえのない七十二候、そして365日四季から二十四節気

日本の
365日を
愛おしむ

毎日が輝く生活暦

本間美加子



日本の365日を愛おしむ

チューリップを見物に来られ妻も上機嫌。

今までチューリップの原産国はオランダと思つていたが、それは間違いで正解はトルコであることを知る。トルコからオランダに渡り、そこで品種改良が行われ、今や世界には7500種類以上あるという。

「トルコの国花はチューリップ」

「親日国、トルコ」

トルコと言えば、歴史の時間にトルコが大親日国となった経緯を思い出させてくれた。

明治23年(1890年)トルコの軍艦「エルトウルル号」が和歌山県沖で台風のため遭難した。地元の人たちが命がけで救助したにもかかわらず約500人が犠牲になった。それ以来トルコは親日家になったという。

「チューリップ・ブック」そう言えば自分たちが海外を旅した国のチューリップの歴史をもっと詳しく知りたい。



チューリップ・ブック

八坂書房



トルコ至宝展のチラシ